



LAZONA^{ラゾーナ} 藤尾歴史散歩

藤尾学区まちづくり協議会設立準備委員会 歴史文化部会



第4回 車石

江戸時代、東国や北陸方面から大津に集積された物資は、馬の背や牛が牽引する牛車によって、逢坂山を越えて京都や大阪に運ばれました。しかし大量の物資運搬を行うためには牛車の通路の確保が大きな課題となり、幕府は江戸時代後期の文化元年（1804年）から翌年にかけて、大津札の辻から京都三条大橋までの区間（3里：約12 km）を対象とする街道整備を行いました。それは、この区間に牛車の車輪の幅に合わせて平らな石を敷き並べた石敷きの車道を敷設するとともに、人馬の通行も円滑にするために、牛車の通る車道と人馬が通行する歩道に段差を設けて、歩道と車道を分離した構造とするものでした。JR 大津駅前や大谷町の蟬丸神社境内などで部分的に復元された車道を見ることができますが、旧東海道の大谷・追分界隈を散策すれば、民家の玄関先の景石や石垣の一部に転用された車石をあちらこちらで見ることができます。（文・松井佐彦）

●横木一丁目飯田様宅の車石



謎多き魅力尽きない車石



●藤尾小学校の車石

車石の半生

輪くんの「車石」研究



●紙芝居にもなった車石（作・画 くぼ たかし）

～余話～

「藤尾の名前がついた石が！！」

「藤尾石」。この石を使用した車石は横木～大谷にかけて、とくに横木付近ではよく見られました。この石は、衣笠山から長等山、藤尾にいたる大岩脈から産出された石英斑岩です。細かい石基や長石の地に大きな石英の粒が斑状にみられます。また、ざらめ状になっており、褐色や灰色・青・緑などの地に石英の斑点が特徴的な石です。花の模様に見えることから「花紋石」とも呼ばれます。

藤尾石の採石場（石切場）は藤尾奥町（現 結の森）はじめ5箇所程あったと言われており、藤尾周辺では藤尾石で造られた車石が多く存在します。

（歴史文化部会）

バックナンバーご希望は市民センターまで

